100 世界遺産の旅（147）

氷河特急

マッターホルンを見るには、通常の電車でインターラーケンより直接ツェルマットへ行くことができるが、今回は、あえて「ポストバスの峠越え」と「氷河特急」のコラボ旅行を楽しむ事にした。

スイスでは、旅のジャンルの 1 つとしてポストバスを利用する「アルプスの峠めぐり」がある。郵便馬車の名残であるポストバスは、各国郵政省の所管で、ザルツブルグよりハルシュタットまでポストバスで行き、オーストリア・アルプスを堪能したこともある。

グリムゼル峠（標高 2165m）、スイス

ポストバス、グリムゼル峠、2000 年 7 月

インターラーケンより電車で 40 分、マイリンゲン駅へ行き、そこでポストバスに乗り換えた。10 数人の客を乗せたポストバスは、はじめはゆっくりと坂道を登っていくが、峠に近づくにつれて急な山道になった。

その急な山道を登り詰めたところが、グリムゼル峠と呼ばれ、スイスで最も壮観な峠と云われている。その峠にホテル、レストラン、公園があり、約 20 分の休憩で、乗客は下車して、トイレに行くなり、周りの雪山と氷河湖の大パノラマを眺望するなりしていた。

グリムゼル峠よりオーバーワルト駅への坂道、スイス

峠を出発して、日光の「いろは坂」を思い浮かべる九十九折の急峻な坂道を下り、氷河特急の停車駅であるオーバーワルト駅にたどり着いた。氷河特急到着までの待ち時間は 1 時間半で、天候は良好、遠くのツェルマット方面に冠雪の高い山々が見え、長閑な田園風景を味わいながら、暫し、駅の近辺を歩いてみた。

アメリカ映画「真昼の決闘」で、悪党達がボスの到着を駅で待つシーンを思い出すほど、駅は、静寂として、人が見当たらない。200mほど先に林間学校へ行くのだろうか、見渡す限りの風景に、唯一、20 人位の学生たちの一行が、音もなく見える動体だった。

オーバーワルト駅、スイス、2000 年 7 月

1930 年に開通した氷河特急は、スイス南部のサンモリッツとツェルマットの有名な 2 つのリゾートを結ぶ山岳鉄道である。全長 291km を約 8 時間で走行し、時速 36km は「世界で最も遅い特急」と云われる。

ゆっくりと流れる時間と風景を楽しみながら、食堂車でランチを頂くのが、氷河特急における最高の楽しみ方であるが、残念ながら、予約で満席だった。

旅は、人生の縮図である。その旅においても「断る勇気」と共に、時には「諦める勇気」が必要である。

氷河特急の車窓風景と「傾いたワイングラス」、スイス

今回、氷河特急の旅は、オーバーワルト駅（標高 1300m）で乗車し、ブリーク駅（標高 671m）を経由して、ツェルマット駅（標高 1604m）までだった。

鉄道全線の最大標高差は 1362m で、この高低差をヒントにして「傾いたワイングラス」が考案され、氷河特急/乗車記念の代表的な記念品になっている。

しかしながら、実際の線路の傾きは、最大で約 6 度に対し、ワイングラスの傾きは、15 度にデザインされ、記念品には誇張が盛り込まれているようだ。

巻末（3-11）欧州アルプス 3 名峰